

④被災地域の再生・活性化に向けた取組

(株)海楽荘に対する温泉ホテル新設に向けた支援 (施設名：大船渡温泉)

(岩手銀行)

【概要】

東日本大震災により甚大な被害を受けた旅館事業者の復旧・復興にあたり、岩手銀行はファンドを含む関係金融機関、行政機関と連携・調整しながら、温泉旅館「大船渡温泉」の新設を支援。

宿泊場所が不足している沿岸地域における、新たな宿泊需要、雇用の受け皿として、岩手県大船渡市の復興に貢献。

背景と経緯

岩手県沿岸地区で個人事業者として旅館を営んでいた事業者が、東日本大震災の津波により、2館のうち1館が甚大な被害を受けた。

震災後、当地は復興需要により宿泊場所が恒常的に不足していることから、宿泊需要の受け皿を拡大すべく、まずは被害を受けた1館を早期に復旧させた。更には「温泉ホテル」という新たな施設を立ち上げるため、新会社である(株)海楽荘を設立し、開設準備を進めていた。

しかしながら、多額の投資を要する事業であるゆえ、資金調達に苦慮している状況にあったことから、岩手銀行が主体となって投資計画の妥当性を検証するとともに、他行・各種ファンド・公的機関と連携を図りながら、本件に活用できる助成制度活用を検討や、資金調達方法の組み立てを検討することにした。

具体的な取組

当行は、経営者が思い描く事業像を汲み取りながら、温泉ホテル開設計画の検証を進めていった。更に、資金調達の枠組みも検討を重ね、以下のような制度(次頁)を活用した官民一体での支援スキームを立案し、実行に至った。

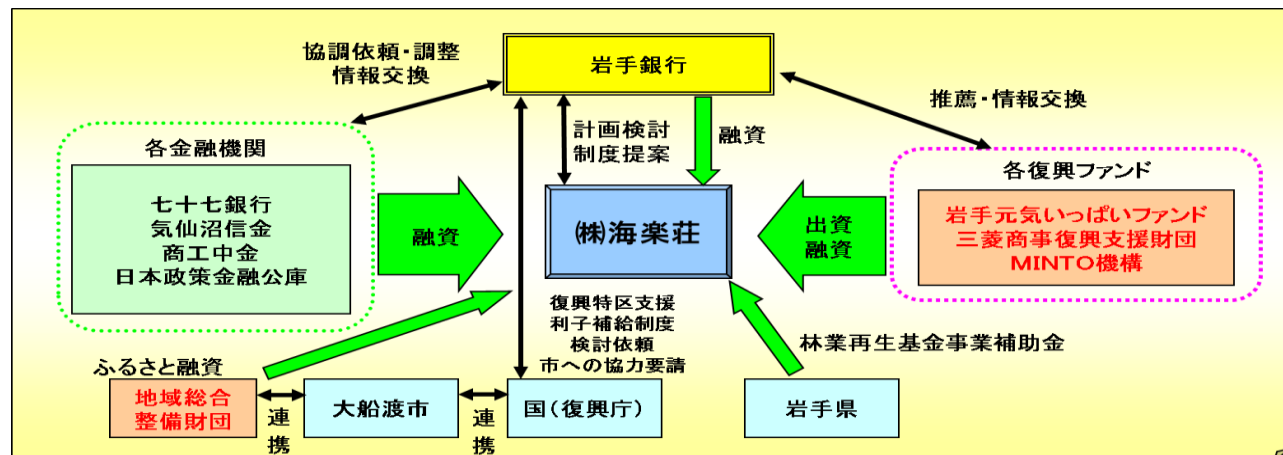


図1 取組スキーム

- ① 地元金融機関、政府系金融機関、および当行の5行庫による協調融資
- ② 岩手元気いっぱいファンド、ほか計3つの公的ファンド・民間ファンドによる出資・融資
- ③ ふるさと融資、県の補助金、復興特区支援利子補給制度の、3つの公的制度の活用

取組の成果

平成26年7月、「大船渡温泉」がオープンし、部屋数69室、収容人数230名、年間5万人の宿泊の受け皿が整い、50名の雇用を創出したほか、地元暮らし人々の憩いの場、癒しの場を提供するに至った。また、当地の復興に携わる人員の受入態勢の拡充に寄与し、震災復興事業の加速化を後押しする結果となった。

さらに、本件取組を通して、地元金融機関、政府系金融機関、国や関連自治体、及びファンド関係機関・団体など、官民挙げての協調関係が醸成され、今後の復興支援活動への連携強化に資する効果もあった。



写真1 オープンした温泉ホテル外観



写真2 客室



写真3 露天風呂

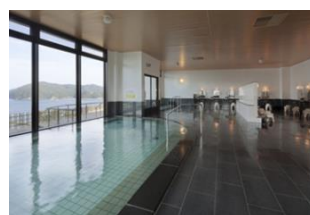


写真4 大浴場



今後の課題

建設関連などの復興需要が減退してきた時でも、安定した集客を維持していくためには、観光客、地元客に対しても強い訴求力を持つよう、魅力を発信していく必要がある。

また、本案件組成に参画した各事業体の今後の更なる協調連携関係の強化も必要である。復興のステージが進む中、現場のニーズの変化、多様なニーズに連携して取り組んでいくことが重要である。



Point | 支援実施のポイント／横展開にあたっての示唆

支援実施のポイント① 新事業の計画策定段階からの積極な関与

支援実施のポイント② ファンドの活用、関係金融機関・自治体との連携

支援実施のポイント③ 広範かつ広域的な連携モデルの構築